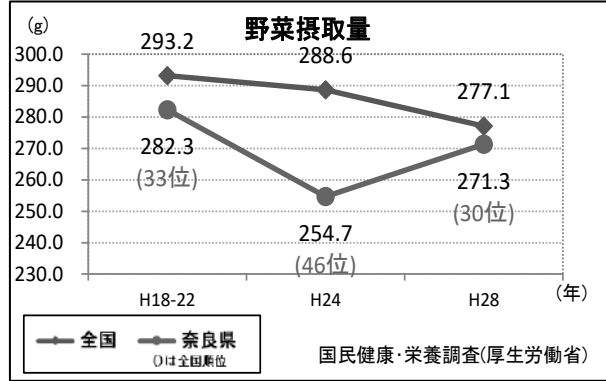
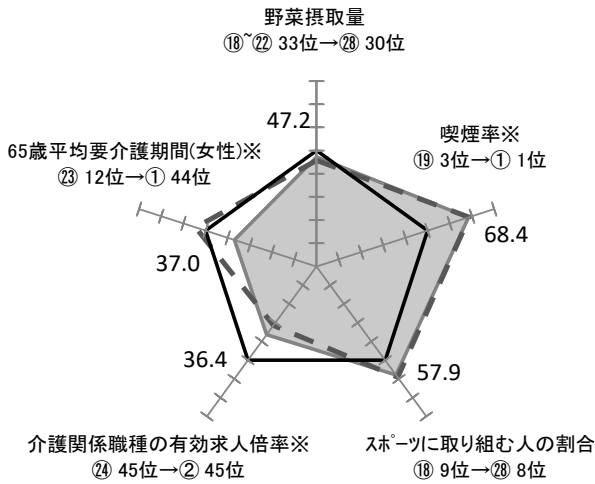


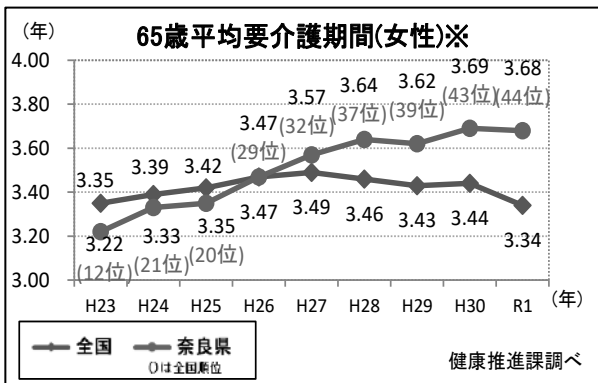
15. 健康寿命日本一を目指した健康づくり

【担当部局等】
福祉医療部、医療政策局

1. 現状分析

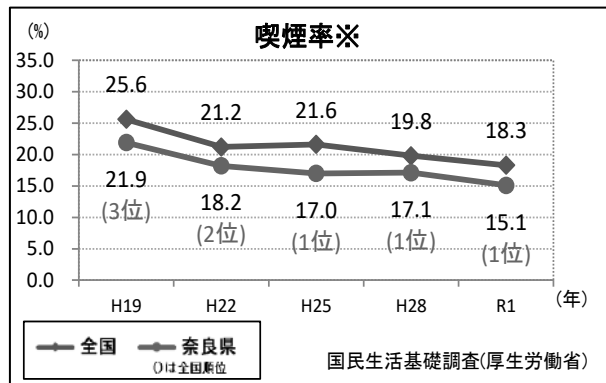


平成28年の野菜摂取量は平成18~22年と比べて11.0g減少しましたが、平成24年からは16.6g増加しており、全国平均との差が縮まっています。



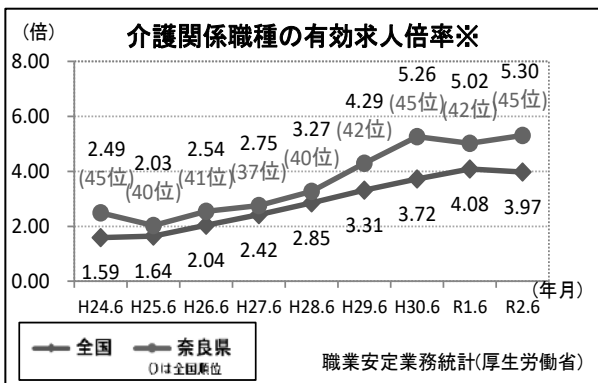
※は数値が低い方が良くなる指標です。

令和元年の女性の平均要介護期間は、平成23年と比べて0.46年延長し、全国平均を上回っています。



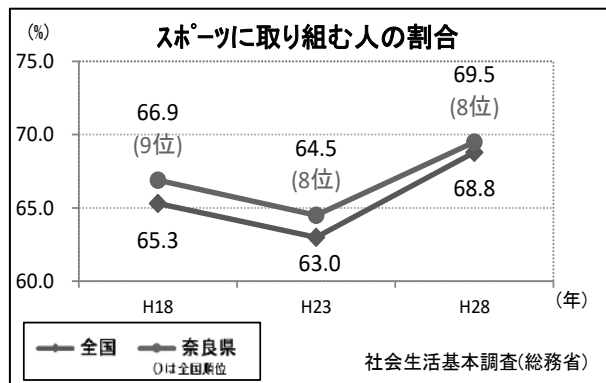
※は数値が低い方が良くなる指標です。

令和元年の喫煙率は、平成19年と比べ6.8ポイント低下しており、平成25年から全国1位となっています。



※は数値が低い方が良くなる指標です。

介護関係職種における有効求人倍率の伸びは、人材不足の深刻さを表しています。本県は、全国平均を上回っており、人材不足が顕著です。

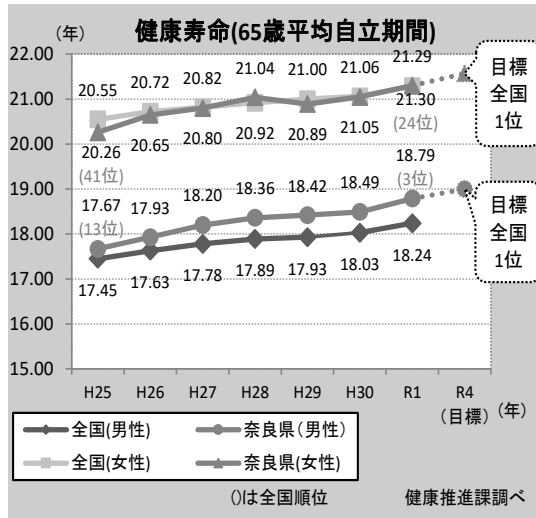


平成28年のスポーツに取り組む人の割合は、平成18年と比べて2.6ポイント上昇しており、全国平均を上回っています。

2. 各テーマの「目指す姿」達成に向けた進捗状況

坊	15.健康寿命日本一を目指した健康づくり
テーマ	(87) 健康増進施策の推進
目指す姿	令和4年までに県民の健康寿命(65歳平均自立期間)を男女とも日本一にします。

CC(チーフコーディネーター)
(87)
医療政策局
健康推進課長
小嶋 宏平



健康寿命(65歳平均自立期間)(年)					
	基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
男性	17.67 (13位)	↑	18.79 (3位)	全国1位	順位を10上げました
	H25年(2013)	1.12(年)	R1年(2019)	R4年(2022)	6/9 年目
女性	20.26 (41位)	↑	21.30 (24位)	全国1位	順位を17上げました
	H25年(2013)	1.04(年)	R1年(2019)	R4年(2022)	6/9 年目
直近の指標の動き					
男性	18.42 (H29年)	↑	18.49 (H30年)	↑	18.79 (R1年)
女性	20.89 (H29年)	↑	21.05 (H30年)	↑	21.30 (R1年)

指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
<p>男性の健康寿命は平成25年から令和元年の6年間で1.12年延伸し、都道府県順位は13位から3位に上昇しました。全国でも上位に位置しており、目標達成に近づいてきています。</p> <p>女性の健康寿命は平成25年から令和元年の6年間で1.04年延伸し、都道府県順位は41位から24位に上昇しました。目標達成に向けて進捗しています。</p>	<p>健康寿命の延伸要因は種々ありますが、禁煙、減塩、運動が疾病の予防に強く影響する健康行動であり、本県では、たばこ対策の推進、「やさしおベジ増しプロジェクト」等の減塩・野菜摂取の推進、健康ステーションによる、おでかけ健康法の普及等の取組を進めてきたことも一因となっていると考えられます。</p>

「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き

※令和2年の数値がないため、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は反映できておりません。

主な取組	関係する指標	指標の動き						
減塩・野菜摂取の推進	食育推進計画策定市町村数[累計](市町村)	35	↑	37	↑	39	→	39
		H29年度(2017)	2市町村	H30年度(2018)	2市町村	R1年度(2019)	0市町村	R2年度(2020)
身体活動の推進 おでかけ健康法の普及	健康ステーション設置市町村数[累計](市町村)	3	→	3	↑	4	→	4
		H29年度(2017)	0市町村	H30年度(2018)	1市町村	R1年度(2019)	0市町村	R2年度(2020)
たばこ対策の推進	禁煙支援リーフレットの活用市町村数(市町村)	30	↓	29	↑	30	↓	25
		H29年度(2017)	▲1市町村	H30年度(2018)	1市町村	R1年度(2019)	▲5市町村	R2年度(2020)

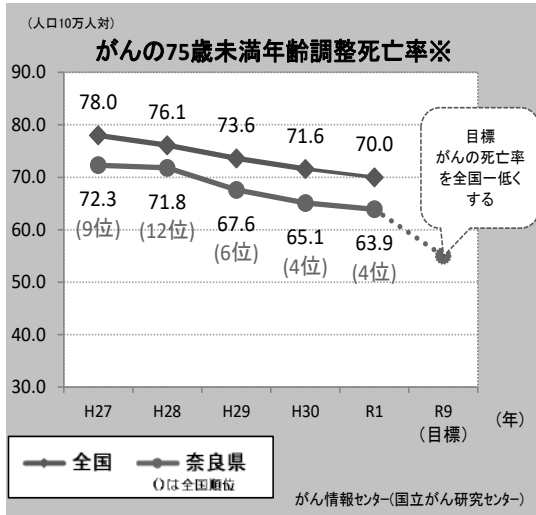
「目指す姿」達成に向けた成果・取組

スーパーマーケット等において中食(そう菜等)の減塩や野菜増量に取り組む「やさしおベジ増しプロジェクト」に、新たに2店舗が参加し、県内52店舗が取り組みました。

週1回以上歩いて通える身近な会場で体操等を行う「通いの場」の立ち上げに関する市町村支援により、県内35市町村において拡大・充実が進みました。

坊	15.健康寿命日本一を目指した健康づくり
テーマ	(88) がん対策の推進
目指す姿	令和9年のがんの75歳未満年齢調整死亡率を全国一低くします。

CC(チーフコーディネーター)
(88)
医療政策局 疾病対策課長 戸毛 由樹子



がんの75歳未満年齢調整死亡率※(人口10万人対)				
基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
72.3	↗	63.9	全国一低くする	順位を5上げました
(9位)	↗	(4位)		
H27年(2015)	▲ 8.4 (人口10万人対)	R1年(2019)	R9年(2027)	4/12 年目
直近の指標の動き				
67.6	↗	65.1	↗	63.9
H29年	▲ 2.5 (人口10万人対)	H30年	▲ 1.2 (人口10万人対)	R1年

※は数値が低い方が良くなる指標です。

	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
進捗状況	令和元年のがん死亡率は、平成27年と比べて人口10万人あたり8.4ポイント減少して全国4位となりました。直近の平成30年と比べても1.2ポイント減少しており、目標に向けて順調に進捗しています。また、平成17年を基準とした減少率は32.2%であり、平成27年以降5年連続で全国1位となっています。	がん医療の充実として、拠点病院等の医療体制を整備し、県内のがん情報を「がんネットなら」で県民に分かりやすく公表しています。また、がん予防・早期発見の推進として個別受診勧奨の取組により、受診率が向上、たばこ対策の推進により喫煙率が減少しました。データに基づく効果的ながん対策、がんゲノム医療等、高度医療・先進医療の提供体制を整備しています。

「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き

※令和2年度の数値がないため、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は反映できておりません。

主な取組	関係する指標	指標の動き						
データに基づいたがん対策の充実及び県民への診療情報の見える化の推進	「がんネットなら」のページ数(件)	60,721	↗	65,061	↗	87,397	↘	76,694
		H29(2017)	4,340件	H30(2018)	22,336件	R1(2019)	▲ 10,703件	R2(2020)
がん検診の推進	集団健診にて特定健診とがん検診を実施している市町村数(市町村)	33	↗	35	→	35	↘	28
		H29(2017)	2市町村	H30(2018)	0市町村	R1(2019)	▲ 7市町村	R2(2020)
がん検診の推進	がん検診の個別受診勧奨・再勧奨に取り組む市町村数(市町村)	22	↗	29	↘	28	↗	29
		H29(2017)	7市町村	H30(2018)	▲ 1市町村	R1(2019)	1市町村	R2(2020)

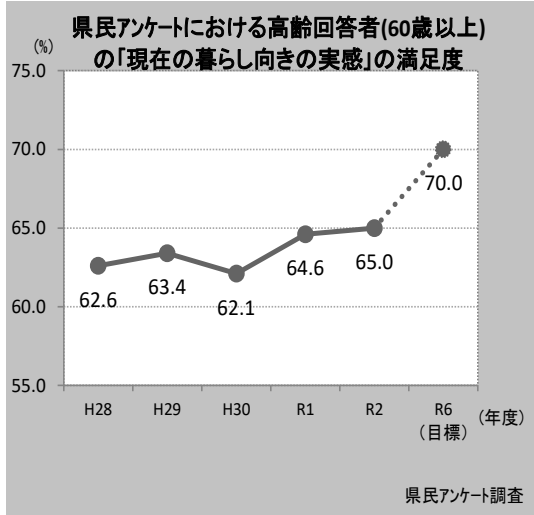
「目指す姿」達成に向けた成果・取組

「がん検診を受けよう」奈良県民会議の会員数は114団体(H24)から129団体(R2)に増加しています。また、コロナ禍において密になる街頭啓発に代わり、新聞やフリーペーパー等、様々な媒体を活用した幅広い世代へのがんに関する知識の普及啓発を強化しました。

県内のがん診療情報を、県民ががんの治療や病院を選ぶ際に役立つよう、適切に分かりやすく見える化し「がんネットなら」で公表しています。令和2年度からは、がん検診で精密検査が必要となった際、検査ができる施設を「がん種別、市町村別」で検索できるようにするとともに、見やすいページに更新しました。

坊	15.健康寿命日本一を目指した健康づくり
テーマ	(89) 高齢者の安全安心なくらし
目指す姿	令和6年度までに県民アンケートにおける高齢回答者(60歳以上)の「現在の暮らし向きの実感」の満足度70%を目指します。(「満足している」「十分とはいえないが一応満足している」の回答者率)

CC(チーフコーディネーター)
(89) 福祉医療部 長寿・福祉人材確保対策課長 田中 裕之



指標	県民アンケートにおける高齢回答者(60歳以上)の「現在の暮らし向きの実感」の満足度(%)				
	基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
	62.6	↗	65.0	70.0	32.4%
	H28年度(2016)	2.4(ポイント)	R2年度(2020)	R6年度(2024)	4/8 年目
直近の指標の動き					
	62.1	↗	64.6	↗	65.0
	H30年度	2.5(ポイント)	R1年度	0.4(ポイント)	R2年度

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	基準となる平成28年度から直近の令和2年度まで、高齢回答者のおよそ3分の2が「現在の暮らし向きに満足している」と回答してきており、目標達成に向けて進捗しています。	高齢者が住み慣れた地域で健康に、生きがいをもって暮らし続けられるよう、スポーツや文化等を通じた社会活動の機会づくり、認知症の正しい知識の普及啓発に取り組んだ結果、年々割合が上昇しています。

「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き

主な取組	関係する指標	指標の動き						
介護分野への参入促進の取組強化	介護のお仕事入門研修修了者数[累計](人)	-	-	-	-	34	↗	63
		-	-	-	-	R1年(2019)	29人	R2年(2020)
		-	-	-	-			
高齢者の権利擁護の推進	認知症サポーター養成者数[累計](人)	85,098	↗	98,263	↗	111,774	↗	117,854
		H29年度(2017)	13,165人	H30年度(2018)	13,511人	R1年度(2019)	6,080人	R2年度(2020)

「目指す姿」達成に向けた成果・取組

幅広い福祉人材の参入促進及び元気シニアの就労による社会参加の促進を目指して、中高年齢者を対象とした「介護のお仕事入門研修」を実施しました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、新たに29名のシニアが研修を修了し、元気シニアの介護分野への就労促進に取り組みました。

認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らせる地域づくりの推進を目指して、地域住民や企業等を対象とした「認知症サポーター養成講座」を実施しました。令和2年度は新たに6,080名が養成講座を修了し、地域で認知症の方や家族の見守り活動に取り組みました。

3. 次年度に向けた課題の明確化

15. 健康寿命日本一を目指した健康づくり

- (87) 健康増進施策の推進
- (88) がん対策の推進
- (89) 高齢者の安全安心なくらし

内部要因(奈良県内部の状況…ヒト・モノ・カネ等の資源や風土等)

- | | |
|--|--|
| <p>＜奈良県の持っている強み＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年度の奈良県健康ステーションの入場者数は1日平均28人(橿原)、20人(王寺)とそれぞれ減少しているが、誰でも、気軽に、日常生活の中で健康づくりを実践できる拠点として役割を果たしている。 2.定期的に歯科検診を受診している人の割合が増加傾向(男性33.0%、女性39.6%(平成23年度)→男性41.0%、女性52.7%(令和2年度)) 3.行政・議員・企業・NPO等からなる「がん検診を受けよう!奈良県民会議会員数は129団体であり、県内39市町村に会員の拠点があることから、地域発のがん検診やがん予防の啓発活動を展開できる。 4.令和元年における喫煙率は、全国一低い(全体15.1%(全国1位)、男性24.4%(全国2位)、女性6.9%(全国9位)) 5.福祉・介護事業所認証制度の運用開始 | <p>＜奈良県の抱えている弱み＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 6.平成28年における食塩摂取量は、男性が10.6g(全国14位、6県同率)、女性が9.2g(全国26位、4県同率)で目標値の8gより多く摂取 7.平成28年における野菜摂取量は、男性が279.1gで全国30位、女性が263.5gで全国26位と少ない。 8.市町村の実施するがん検診の受診率は、胃がん27位、肺がん38位、大腸がん33位、乳がん33位、子宮がん32位(令和元年)であり、中位から下位となっている。 9.福祉人材の有効求人倍率が全国平均より高く、福祉・介護人材が不足 |
|--|--|

外部要因(奈良県外部の状況…社会情勢の変化、制度改正、県民ニーズ等)

＜奈良県への追い風＞

- a.インターネットを通じた調理動画が多く掲載されるようになり、実践に必要な情報入手が容易になっている
- b.令和2年4月～健康増進法により多くの者が集まる施設で原則屋内禁煙となり望まない受動喫煙対策が進展
- c.「がん検診を受けよう!奈良県民会議会員数が増加
- d.奈良県のがん検診の受診率(令和元年)は5がん全てで向上
- e.がん検診の個別の受診勧奨・再勧奨に取り組む市町村数が増加

(新型コロナウイルス感染症に関連する追い風)

- f.新型コロナウイルス感染症拡大前と比較して、自宅で食事を食べる回数や自宅で料理を作る回数が増加

＜奈良県への向かい風＞

- g.誤嚥性肺炎死亡が増加しており、平成29年から死因順位に用いる分類項目に追加され第7位
- h.がんネットならのページビュー数の減少
- i.高齢化の進展に伴い要介護者数が増加
- j.福祉・介護職場は身体的・精神的負担が大きい割に他の産業と比して賃金が低い

(新型コロナウイルス感染症に関連する向かい風)

- k.新型コロナウイルス感染症流行による外出制限、ソーシャルディスタンス確保の要請

＜強みで追い風を活かす課題＞

- 【重要課題】データに基づく効果的ながん対策の推進(3,4,c,d,e)
- 【重要課題】禁煙支援と受動喫煙対策の推進(3,4,b)

＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞

- 【重要課題】減塩・野菜摂取(食育)の推進(6,7,a,f)
- 【重要課題】がん検診受診率の向上に向けた取組の推進(8,c,d,e)

＜強みで向かい風を克服する課題＞

- 【重要課題】運動の推進(1,k)
- 【重要課題】歯科口腔保健の推進(2,g,k)
- 【重要課題】がんに関する情報をわかりやすくまとめ、「がんネットなら」で情報提供を行う(3,h)
- ・福祉・介護事業所認証制度の普及推進(5,j)

＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞

- 【重要課題】福祉・介護人材の確保(9j)
- ・高齢者のいきがいづくり(9,i)

4. 重要課題等に対するこれまでの評価、取組及びそれらを踏まえた今後の取組方針

《強みで追い風を活かす課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
データに基づく効果的ながん対策の推進(テーマ(88))	がんのリスク要因を減らす生活習慣について見える化し、様々な媒体を活用した幅広い世代へのがんに関する知識の普及啓発を強化しました。	住民が自分のこととしてがん予防・検診の受診行動につながるように、各市町村において、住民に向けてわかりやすく提案・啓発できるよう市町村への支援を継続します。
禁煙支援と受動喫煙対策の推進(テーマ(87,88))	禁煙支援ツールの提供や、受動喫煙防止のため各保健所に相談窓口を設置、相談支援と更なる啓発を実施し、喫煙率は下がっています。また、喫煙は全部位のがんになるリスクを高める要因であることが、最新のエビデンスで明らかになっていることから、がん予防について県民だよりや新聞等に掲載し啓発を行いました。	引き続き、関係機関と連携した啓発活動、禁煙支援ツールの提供及び奈良養生訓等への掲載などにより、禁煙希望者への禁煙支援と望まない受動喫煙対策を進めます。

《弱みを踏まえ追い風を活かす課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
減塩・野菜摂取(食育)の推進(テーマ(87))	令和元年度にスーパーマーケット等で販売される中食(そう菜等)の減塩、野菜増量の取組として「やさしおベジ増しプロジェクト」を開始しました。また令和2年度から健康的な食生活の実践に向けて、県民から「やさしおベジ増し宣言」を募集することによる普及啓発を実施しました。	引き続き、「やさしおベジ増しプロジェクト」参加協力店舗を増やすとともに、新型コロナウイルス感染症の流行により、家庭で食事をする機会が増加していることから、食生活改善の好機でもありとらえ、SNS等も活用して県民への普及啓発を強化します。
がん検診受診率の向上に向けた取組の推進(テーマ(88))	「がん検診を受けよう!」奈良県民会議員の協力のもと、がん検診受診率向上の取組として各機関で啓発活動を実施しました。また、がん予防と早期発見について広報活動を強化しました。	引き続き、県民会議員と協力した啓発や、データに基づく分かりやすい情報を県民に提供するなど、がん検診受診率向上の取組を展開します。また、市町村へウイズコロナ時代のがん検診体制等の情報を提供し、市町村のがん検診体制を支援します。

《強みで向かい風を克服する課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
運動の推進(テーマ(87))	県営健康ステーション(橿原・王寺)の利用者数は新型コロナウイルス感染症の影響で減少していますが、誰でも、気軽に健康づくりを開始し、実践できる拠点としての役割を果たしていると考えられることから、感染防止策を講じて今後も引き続き運営するとともに、市町村営健康ステーションの運営に対する財政支援を行ってきました。	新型コロナウイルス感染症対策の下、「3密」を回避して、自宅で行える運動等の情報発信を行うことにより、県民に対して運動習慣の浸透及び健康な生活の維持に取り組みます。健康ステーションでは、活動量計の無償貸与と期間を6ヶ月から1年間に延長して、運動習慣の定着に取り組みます。
歯科口腔保健の推進(テーマ(87))	歯科医師会等の関係団体と連携し、歯科口腔保健に係る人材養成を進めるとともに、歯科口腔保健事業を住民に直接実施する県内市町村において、歯科口腔保健の位置づけが相対的に低い等の原因により歯科技術職員配置率が低いことから、口腔保健支援センター・保健所を通じた支援により、市町村の取組の充実を図ってきました。	歯科検診受診率等、歯科口腔保健に係る指標は改善傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症流行による受診抑制もあることから、取組を継続し歯科口腔保健の充実をさらに進めます。
がんに関する情報をわかりやすくまとめ、「がんネットなら」で情報提供を行う(テーマ(88))	県民ががんの治療や病院を選ぶ際に役立つよう診療情報を見える化し、「がんネットなら」を更新し、周知しました。コロナ禍の啓発方法として様々な媒体を活用した幅広い世代へ向けたがんに関する広報活動を強化してきました。	引き続き、データに基づく情報提供を行い、「がんネットなら」について適宜更新し周知していきます。また、Web配信等のツールを使った広報活動を展開し、「がんネットなら」を活用した情報発信を促進していきます。

《弱みを踏まえ向かい風に備える課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
福祉・介護人材の確保(テーマ(89))	急速な高齢化の進展に伴い、介護が必要な高齢者の増加が見込まれるため、福祉・介護人材の確保が求められていますが、事業所においては、介護サービスに従事する従業員の採用が困難で、従業員の不足感が高い状況にあります。	奈良県福祉・介護事業所認証制度を運用し、安心して働ける事業所の取組の「見える化」を図るとともに、事業所等と連携してより幅広い層に対して福祉・介護の仕事の魅力のPRやきめ細かな職業相談・職業紹介等の就職支援を行い、福祉・介護人材の確保、育成を進めます。

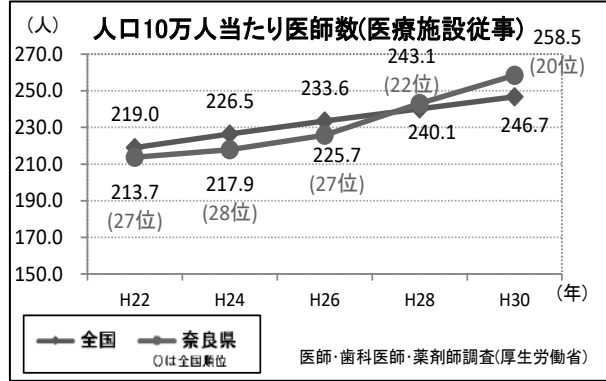
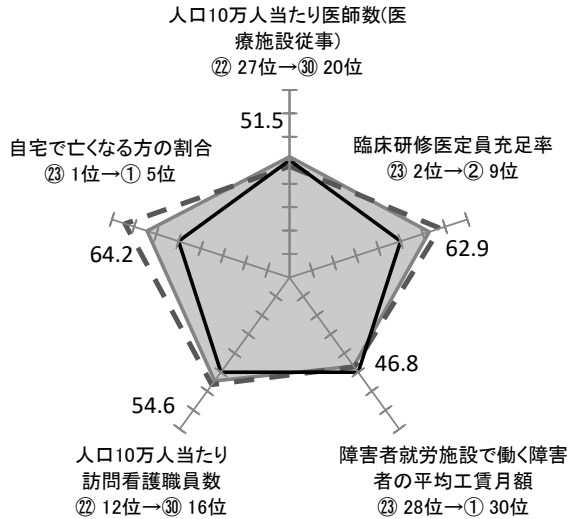
16. 地域医療の総合マネジメント・地域包括ケアの充実

17. 福祉の充実

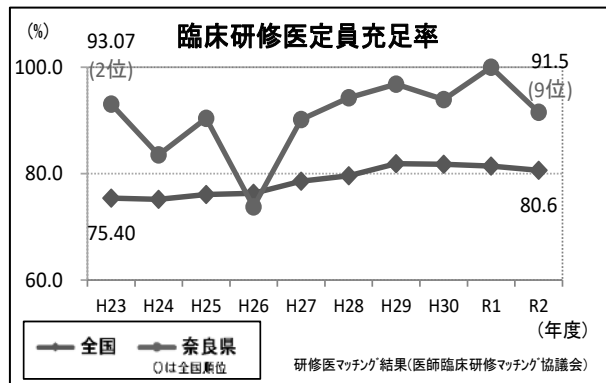
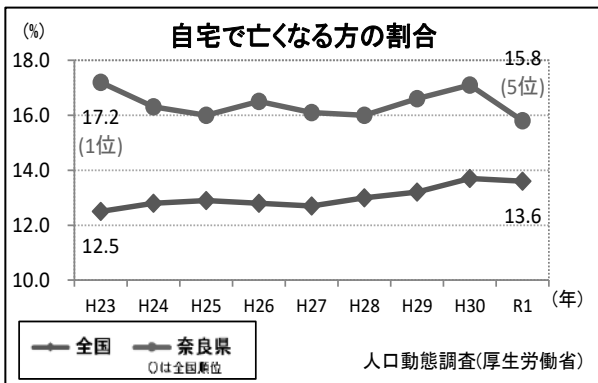
【担当部局等】

福祉医療部、医療・介護保険局、医療政策局

1. 現状分析

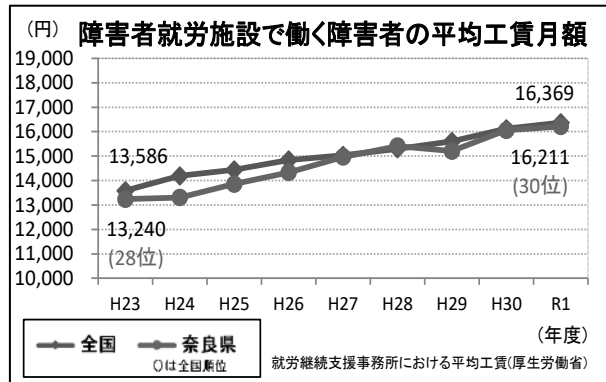
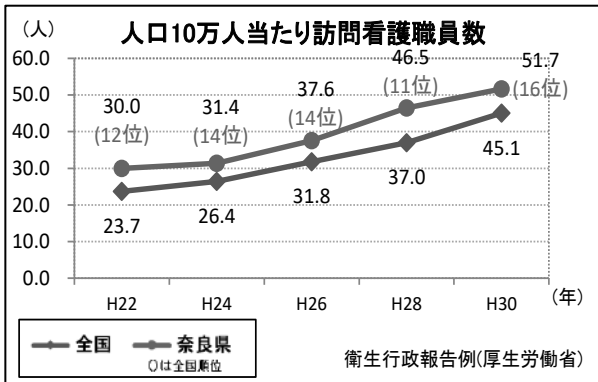


人口10万人当たりの医師数は、県の総合的な医師確保対策や県立医科大学の中期目標達成に向けた取組により、平成28年からは全国平均を上回った状態で推移しています。



令和元年の自宅で亡くなる方の割合は全国5位であり、全国平均を上回る水準で推移しています。

臨床研修医定員充足率は、臨床研修を実施する10病院と県が連携して臨床研修医の確保に取り組むことにより、全国平均と比較すると高い水準になっています。

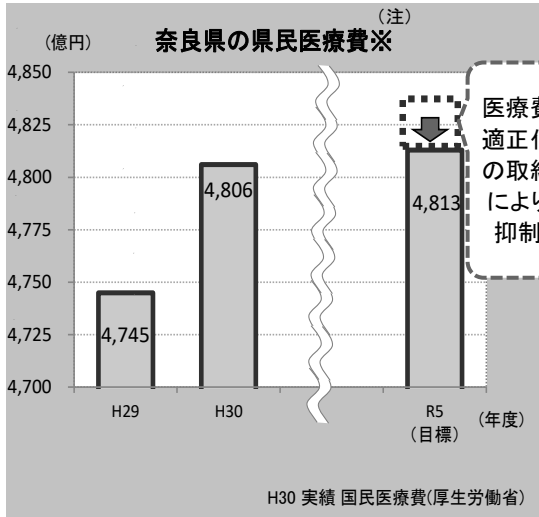


人口10万人当たりの訪問看護職員数は、全国平均を上回った状態で増加しています。

障害者就労施設で働く障害者の平均工賃月額、全国平均を僅かに下回るものの、近年では増加し続けています。

2. 各テーマの「目指す姿」達成に向けた進捗状況

坊	16.地域医療の総合マネジメント・地域包括ケアの充実	CC(チーフコーディネーター)
テーマ	(92) 医療費適正化	(92) 医療・介護保険局長 森川 東
目指す姿	令和5年度の奈良県の県民医療費を4,813億円以下にします。	



奈良県の県民医療費※(億円)				
基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
4,745		4,806	4,813	
H29年度(2017)	61(億円)	H30年度(2018)	R5年度(2023)	
直近の指標の動き				
		4,745		4,806
	H29年度	61(億円)		H30年度

※は数値が低い方が良くなる指標です。

(注) 医療費は増加傾向にあるが、医療費の制度改正や医療費適正化の進捗により、傾向が一様ではないことから、評価の対象は令和5年度時点の医療費とし、年度ごとに評価は行わない。

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	県民医療費は、平成29年度の4,745億円から平成30年度には4,806億円まで増加しています。	後発医薬品の使用促進、糖尿病重症化予防、特定健診・特定保健指導の実施率向上、医療費分析等の医療費適正化の取組をすすめています。高齡化による医療費増加の影響等により県民医療費は増加しています。

「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き

主な取組	関係する指標	指標の動き							
		44.0	↑	45.0	↑	46.8	↑	48.8	
医療費適正化の取組の推進	特定健康診査の実施率(%)	H28年度(2016)	1.0ポイント	H29年度(2017)	1.8ポイント	H30年度(2018)	2.0ポイント	R1年度(2019)	
		16.8	↑	17.8	↑	22.2	↑	23.1	
医療費適正化の取組の推進	特定保健指導の実施率(%)	H28年度(2016)	1.0ポイント	H29年度(2017)	4.4ポイント	H30年度(2018)	0.9ポイント	R1年度(2019)	
		-	-	64.7	↑	69.2	↑	71.8	
医療費適正化の取組の推進	後発医薬品使用割合(%)	-	-	H29(2017)	4.5ポイント	H30(2018)	2.6ポイント	R1(2019)	
		-	-	-	-	-	-	-	

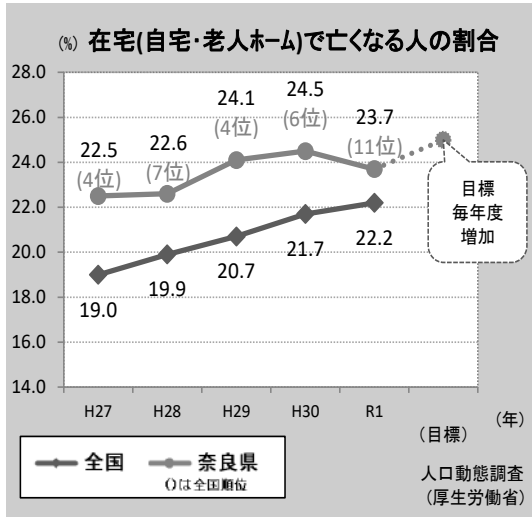
「目指す姿」達成に向けた成果・取組

第3期医療費適正化計画の目標達成に向けて、行政、保険者、医療関係者が連携して医療費適正化の取組のPDCAを進めており、令和2年度は保険者協議会の場を活用し、連携して後発医薬品使用促進の取組を実施しました。

被保険者への差額通知の発送や特定健康診査未受診者への受診勧奨など、後発医薬品使用促進、特定健康診査・特定保健指導実施率向上の取組を実施した結果、後発医薬品の使用割合、特定健康診査・特定保健指導実施率は着実に上昇しています。

坊	16.地域医療の総合マネジメント・地域包括ケアの充実
テーマ	(94) 地域包括ケア・在宅医療の充実、南和における地域包括ケアの実験
目指す姿	在宅(自宅・老人ホーム)で亡くなる人の割合を毎年度増加させます。

CC(チーフコーディネーター)
(94) 医療・介護保険局 地域包括ケア推進室 安田 太津子



在宅(自宅・老人ホーム)で亡くなる人の割合(%)				
基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
22.5	↑	23.7	毎年度増加	1.2ポイント増加しました
H27年(2015)	1.2(ポイント)	R1年(2019)		
直近の指標の動き				
24.1	↑	24.5	↓	23.7
H29年	0.4(ポイント)	H30年	▲0.8(ポイント)	R1年

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	令和元年度は23.7%と前年度より0.8ポイント低下したものの、全国平均より高くなっており、平成27年度からは1.2ポイント増加しました。	居宅サービスや地域密着型サービスの充実を図るとともに、多職種が連携した在宅医療を推進したこと等により、在宅(自宅・老人ホーム)で亡くなる人の割合は全国平均より高くなっています。

「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き

主な取組	関係する指標	指標の動き						
		9	↑	17	↑	38	↑	39
地域ごとの退院調整ルールの策定と広域調整の推進	退院調整ルールの策定市町村数[累計](市町村)	H29年度(2017)	8	H30年度(2018)	21	R1年度(2019)	1	R2年度(2020)
		市町村		市町村		市町村		市町村
「奈良県高齢者福祉計画及び第8期介護保険事業支援計画」の策定	要介護認定者1人当たりの年間の訪問看護サービス(介護保険分)利用数(回)	H28年度(2016)	0.66	H29年度(2017)	0.33	H30年度(2018)	0.23	R1年度(2019)
		回		回		回		回
「奈良県高齢者福祉計画及び第8期介護保険事業支援計画」の策定	入退院支援加算届出病院数(病院)	H29年度(2017)	7	H30年度(2018)	1	R1年度(2019)	2	R2年度(2020)
		病院		病院		病院		病院

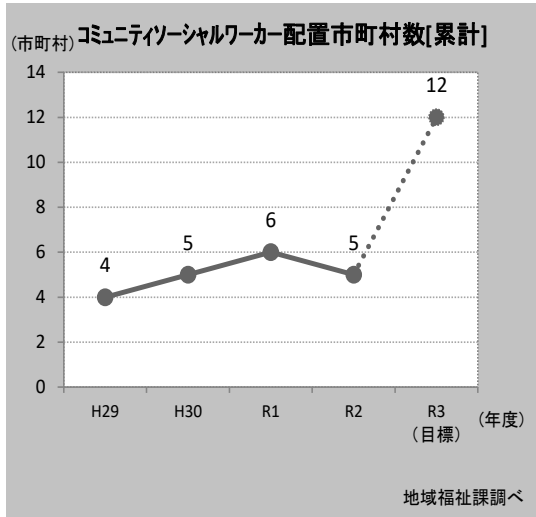
「目指す姿」達成に向けた成果・取組

介護の必要な方が、退院の際に円滑に在宅移行できるよう、退院調整ルールづくりの調整を進めてきた結果、令和3年4月から全市町村での運用となりました。

南和地域においては、健康寿命の延伸をテーマに、令和2年10月から知事と市町村長との意見交換を始めました。また、南和地域に相応しい地域包括ケアシステムの構築に向けて、南和広域医療企業団、構成市町村及び県が連携し、南奈良訪問看護ステーションが令和3年1月に開設されました。

坊	17.福祉の充実
テーマ	(97) 福祉の奈良モデル構築
目指す姿	令和3年度までにコミュニティソーシャルワーカー配置市町村を12市町村にします。

CC(チーフコーディネーター)
(97)
福祉医療部政策参与 西川 浩至



コミュニティソーシャルワーカー配置市町村数[累計](市町村)				
基準値		実績値	目標値	進捗率 (傾向)
4	↗	5	12	12.5%
H29年度 (2017)	1 (市町村)	R2年度 (2020)	R3年度 (2021)	3 4 年目
直近の指標の動き				
5	↗	6	↘	5
H30年度	1 (市町村)	R1年度	▲1 (市町村)	R2年度

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	養成研修を修了したコミュニティソーシャルワーカーの配置市町村数は、平成29年度から毎年1増加し、令和元年に6市町村となりました。令和2年度は令和元年度より1減の5市町村となり、進捗率は12.5%となっています。	平成28年度より、県と県社会福祉協議会が協働して、コミュニティソーシャルワーカーの養成研修を実施し、令和2年度までに計256名が研修を修了しました。加えて、コミュニティソーシャルワーカーを主軸とした住民主体の課題解決に向け、市町村への個別支援を実施したこと等により、コミュニティソーシャルワーカーの配置市町村数は、少しずつ増加してきましたが、令和2年度は、市町村の体制変更により1減となりました。

「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き

主な取組	関係する指標	指標の動き						
コミュニティソーシャルワーカーの支援	コミュニティソーシャルワーカー養成研修修了者数[累計](人)	124	↗	173	↗	218	↗	256
		H29年度 (2017)	49 人	H30年度 (2018)	45 人	R1年度 (2019)	38 人	R2年度 (2020)
市町村地域福祉計画策定の推進	市町村地域福祉計画策定率(%)	30.8	↗	43.6	↗	59.0	↗	66.7
		H29年度 (2017)	12.8 ポイント	H30年度 (2018)	15.4 ポイント	R1年度 (2019)	7.7 ポイント	R2年度 (2020)

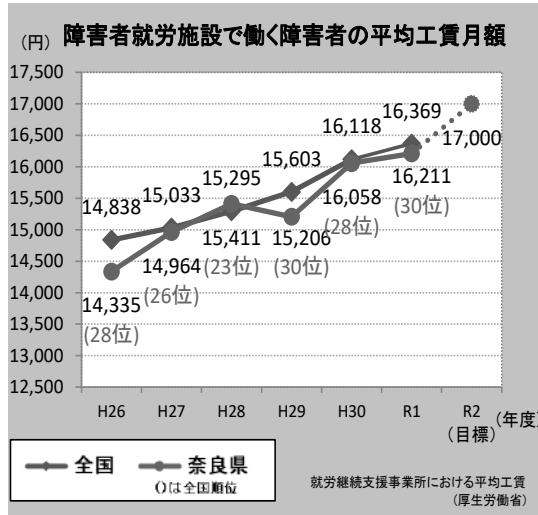
「目指す姿」達成に向けた成果・取組

市町村が包括的な支援体制を構築するにあたり、県の施策の方向性を検討するため、モデル市町村の各窓口の相談事例から、地域の複合的な課題とその支援体制の実態を調査しました。

コミュニティソーシャルワーカーの配置、活用方法及び今後の展開に関する相談や助言等の個別支援を、田原本町、高取町、広陵町、吉野町の4町に対して実施しました。

坊	17.福祉の充実
テーマ	(98) 農福連携の推進
目指す姿	障害者就労施設で働く障害者の平均工賃月額の毎年度500円増加を目指します。

CC(チーフコーディネーター)
(98)
福祉医療部 障害福祉課長 東川 富成



障害者就労施設で働く障害者の平均工賃月額(円)				
基準値		実績値	目標値	進捗率 (傾向)
14,335	↗	16,211	17,000	70.4%
H26年度 (2014)	1,876 (円)	R1年度 (2019)	R2年度 (2020)	5/6 年目
直近の指標の動き				
15,206	↗	16,058	↗	16,211
H29年度	852 (円)	H30年度	153 (円)	R1年度

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	令和元年度の平均工賃月額は、平成26年度より1,876円増加して、進捗率は70.4%となり、目標に向かって順調に進捗しています。	農福連携マルシェ(販売会)を開催し、障害者就労施設において生産された農産物等の販売促進に取り組みました。また、障害者就労施設に農業技術に関する専門家を派遣し、野菜や果樹の栽培等についての技術指導や農業活動の支援を行いました。

「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き

※令和2年度の数値がないため、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は反映できておりません。

主な取組	関係する指標	指標の動き						
農業者と障害者の相互理解の促進	農業現場での職場実習の実施箇所数[累計](箇所)	-	-	-	-	3	↗	9
		-	-	-	-	R1年度 (2019)	6	箇所
		-	-	-	-	R2年度 (2020)	9	

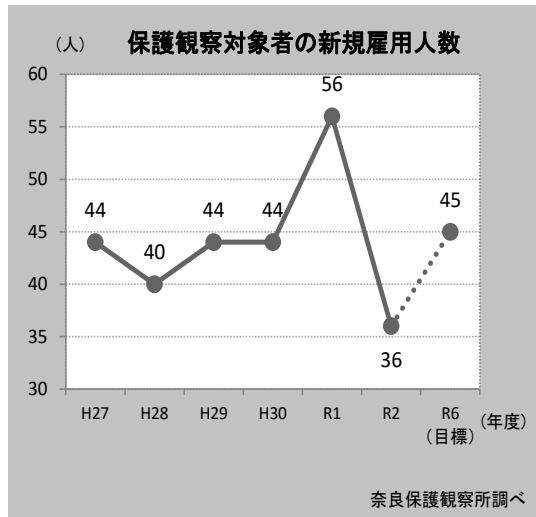
「目指す姿」達成に向けた成果・取組

農業分野における農業体験実習を実施し、農業者と障害者の相互理解を促進しました。前年度から取組をスタートし、令和2年度は産地の範囲を広げ、9箇所において実習を実施しました。今後も実習機会の拡大に取り組み、障害者の就労につなげていきます。

農地を確保し、新たな農福連携に取り組む事業者において令和2年12月にプロジェクトチームが立ち上げられ、県はオブザーバーとして参加しています。当該チームにおいて、先進地視察、現地調査等を実施し、モデル事業の方針及び計画等を策定していきます。

坊	17.福祉の充実
テーマ	(100) 出所者の更生保護、就労支援
目指す姿	令和6年度までに保護観察対象者の新規雇用人数を45人以上にします。

CC(チーフコーディネーター)
(100) 福祉医療部 地域福祉課長 吉岡 佐枝子



保護観察対象者の新規雇用人数(人)				
基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
44	↘	36	45	基準値から8人下回りました
H27年度(2015)	▲ 8 (人)	R2年度(2020)	R6年度(2024)	5/9 年目
直近の指標の動き				
44	↗	56	↘	36
H30年度	12 (人)	R1年度	▲ 20 (人)	R2年度

指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
令和2年度の新規雇用人数は36人となりました。令和元年度より20人減少し、基準値から8人下回りました。	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、シンポジウムやセミナーについて参加人数を制限して実施しなければならなかったこと、また、事件数の減少に伴う保護観察対象者数の減少や協力雇用主の求人数の減少等により目標を下回りました。なお、県が設立した「一般財団法人かがやきホーム」において、保護観察対象者を2名雇用しました。

「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き

主な取組	関係する指標	指標の動き						
出所者の更生に向けた就業支援	社会復帰促進就労支援シンポジウム参加者数(人)	80	↗	85	↘	73	↘	68
		H29年度(2017)	5人	H30年度(2018)	▲ 12人	R1年度(2019)	▲ 5人	R2年度(2020)
出所者の更生に向けた就業支援	出所者が働く上で必要不可欠な資格・免許の取得経費に係る支援者数(人)	1	↘	0	↗	1	↘	0
		H29年度(2017)	▲ 1人	H30年度(2018)	1人	R1年度(2019)	▲ 1人	R2年度(2020)
法人の設立、運営支援等	財団の雇用者数[累計](人)	-	—	-	—	-	—	2
		-	-	-	-	-	-	R2年度(2020)
		-	-	-	-	-		

「目指す姿」達成に向けた成果・取組

令和2年4月に施行した「奈良県更生支援の推進に関する条例」に基づき、同年7月、一般財団法人かがやきホームを設立しました。同法人では、直接出所者を雇用し、就労の場及び住まいを確保するとともに、職業訓練や社会的な教育を提供し、社会復帰を支援しています。

坊	16. 地域医療の総合マネジメント・地域包括ケアの充実	
テーマ	(90) 国保の県営化の円滑な推進	
CC(チーフコーディネーター)	(90)医療・介護保険局次長 森川 東	
目指す姿	令和6年度の県内保険料水準統一化を目指します。	進捗状況 令和6年度の国保の県内保険料水準の統一に向け、納付金算定に用いる標準的な収納率の設定や、保険料・一部負担金の減免基準の統一的運用等について、市町村との協議・合意を経て、令和2年11月に「奈良県国民健康保険運営方針」を改正(令和3年4月適用)しました。

坊	16. 地域医療の総合マネジメント・地域包括ケアの充実	
テーマ	(91) 地域医療構想の推進 (93) 医師確保計画、外来医療計画の策定	
CC(チーフコーディネーター)	(91)地域医療連携課長 大西 勝治 (93)医師・看護師確保対策室長 山口 浩亨	
目指す姿	全国モデルとなる地域医療構想を実現します。	進捗状況 地域医療構想の「奈良方式」として、独自に急性期を重症と軽症に区分する目安を示し、重症な救急や高度医療を担う「断らない病院」と、地域包括ケアシステムを支える「面倒見のいい病院」への機能分化と強化に取り組むこととし、県内医療機関への浸透を図りました。また、これまでの地域医療構想の議論の蓄積を活かし、新型コロナウイルス感染症の入院治療や外来診療の体制整備を進めました。

坊	16. 地域医療の総合マネジメント・地域包括ケアの充実	
テーマ	(95) 県立医大の移転、医大病院施設・外来棟の整備	
CC(チーフコーディネーター)	(95)医療政策局次長 増田 修司	
目指す姿	令和6年度中に新キャンパス先行整備を竣工します。	進捗状況 令和元年度から3年間の予定で実施している新キャンパス敷地の文化財発掘調査を進めるとともに、工事着手に向けて造成詳細設計や建築基本設計等を実施しました。

坊	16. 地域医療の総合マネジメント・地域包括ケアの充実	
テーマ	(96) 西和医療センターの移転・再整備の検討	
CC(チーフコーディネーター)	(96)医療政策局次長 増田 修司	
目指す姿	令和5年度までに新西和医療センター基本構想・基本計画を策定します。	進捗状況 広域的な課題について、県と西和7町で協議の場を立ち上げ、西和地域の医療、包括ケアのあり方について協議を行いました。 令和2年度は、前年度に引き続き、県と奈良県立病院機構が連携して、西和地域の医療需給分析、西和医療センターに求められる医療機能や施設規模の検討を進めました。

坊	17. 福祉の充実	
テーマ	(99) 重症心身障害児(者)支援センターの設置	
CC(チーフコーディネーター)	(99)障害福祉課長 東川 富成	
目指す姿	令和2年度までに重症心身障害児(者)支援センターを設置し、福祉、医療、教育等の各分野が連携して相談支援の充実、人材育成、レスパイト(※)の体制整備等を進めます。 (※)レスパイト…医療型短期入所(ショートステイ)等を利用することにより、障害のある人等を在宅でケアする家族の介護負担の軽減を図ること。	進捗状況 目標どおり、令和2年度に重症心身障害児者支援センターを設置しました。また、令和3年4月に「奈良県重症心身障害児等の地域生活の支援に関する条例」を施行しました。今後は、条例に基づき、重症心身障害児等の日中活動の場及び介護者の負担軽減となる医療型短期入所事業所等を身近な地域に確保する取組などを推進します。

3. 次年度に向けた課題の明確化

16. 地域医療の総合マネジメント・地域包括ケアの充実 17. 福祉の充実

- (90) 国保の県営化の円滑な推進
- (91) 地域医療構想の推進
- (92) 医療費適正化
- (93) 医師確保計画、外来医療計画の策定
- (94) 地域包括ケア・在宅医療の充実、南和における地域包括ケアの実験
- (95) 県立医大の移転、医大病院施設・外来棟の整備
- (96) 西和医療センターの移転・再整備の検討
- (97) 福祉の奈良モデル構築
- (98) 農福連携の推進
- (99) 重症心身障害児(者)支援センターの設置
- (100) 出所者の更生保護、就労支援

内部要因(奈良県内部の状況…ヒト・モノ・カネ等の資源や風土等)

<奈良県の持っている強み>

1. 全国に先駆けた国保の県内保険料水準の統一や法定外繰入の解消など受益と負担の見える化の取組
2. 平成30年度から国保連合会に設置した国保事務支援センターにおいて市町村国保事務の共同化、医療費適正化を県域で推進し、精度の高い医療費分析のための医学的専門機関との連携関係を構築
3. 奈良県立病院機構において、奈良県西和医療センターの他、奈良県総合医療センター及び奈良県リハビリテーションセンターを運営
4. 全国都道府県に先駆けて「奈良県更生支援の推進に関する条例」を制定
5. 「奈良モデル」に基づく県の市町村支援の取組

<奈良県の抱えている弱み>

6. 全国平均を下回る特定健康診査・特定保健指導の実施率
7. 医師は診療科間や地域間で偏在しており、在宅医療を担う訪問看護師が所属する訪問看護ステーションは小規模事業所が多く経営基盤が脆弱
8. 南和地域では高齢化や人口減少が著しく、地域包括ケアシステムを支える医療・介護資源が少ない
9. 小規模な市町村が多く福祉分野における人的資源が分散・不足
10. 障害者就労施設で働く障害者の工賃が全国平均を下回る
11. 重症心身障害児等の居場所(施設等)が県北部に偏り、その他地域に少ない、または無い

外部要因(奈良県外部の状況…社会情勢の変化、制度改正、県民ニーズ等)

<奈良県への追い風>

- a. 国民健康保険法の改正による保険料水準の平準化など国保の取組強化の推進
- b. 国の保険者努力支援制度における医療費適正化指標のアウトカム重視
- c. 国による医師の働き方改革をはじめとする医療従事者の勤務環境改善の推進
- d. 自宅での介護について県民ニーズが高い
- e. 地域共生社会の実現に向けた国による取組の推進
- f. 「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が令和3年6月に公布(令和3年9月施行)

<奈良県への向かい風>

- g. 医師は偏在しており、看護師数は不足している
- h. 全国平均より高齢化の進展が早い
- i. 急速に進む少子化・高齢化と人口減少の社会
- j. 人口減少・高齢化に伴う農林業分野における担い手不足
- k. 制度の狭間の困りごとを抱える人が増加

(新型コロナウイルス感染症に関連する向かい風)

- l. 新型コロナウイルスの影響による生活困窮者の増加

<<強みで追い風を活かす課題>>

- 【重要課題】国保の県内保険料水準の統一(1,a)
- 【重要課題】医療費適正化に資する医療費分析の推進(2,b)

<<強みで向かい風を克服する課題>>

- 【重要課題】奈良県西和医療センターのあり方(3,i)
- 【重要課題】県が設立した一般財団法人による出所者の雇用(4,j)
- ・生活困窮者等への自立支援の充実(5,k,l)

<<弱みを踏まえ追い風を活かす課題>>

- 【重要課題】特定健康診査・特定保健指導の実施率の向上(6,b)
- ・将来的な医療需要に対応した供給体制の再構築(7,8,c)
- 【重要課題】医療従事者の働き方改革の推進(7,c)
- ・地域包括ケアのシステムの構築(8,d)
- ・市町村地域福祉計画の策定の推進(9,e)
- ・それぞれの地域の特性に合わせた「医療機能」と「療育機能」の連携(11,f)

<<弱みを踏まえ向かい風に備える課題>>

- 【重要課題】医師の偏在対策(7,g)
- ・看護師の確保・定着促進(7,g)
- 【重要課題】南和におけるAIを活用した高齢者支援システムの構築(8,h,i)
- ・農業者と障害者施設とのマッチングによる農作業の推進(10,j)

4. 重要課題等に対するこれまでの評価、取組及びそれらを踏まえた今後の取組方針

《強みで追い風を活かす課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
国保の県内保険料水準の統一(テーマ(90))	県内保険料水準の統一に係る課題解消を図るため、市町村との協議・合意を経て「奈良県国民健康保険運営方針」を改正しました。	「奈良県国民健康保険運営方針」に基づく取組を推進するとともに、取組状況の把握・分析を行い、その評価・検証の結果を踏まえたPDCAサイクルを実施します。
医療費適正化に資する医療費分析の推進(テーマ(92))	国保の市町村別、疾病別の医療費と健康行動や健康状態との関係性の分析を行い、効果的な保健事業の立案に資するよう市町村に情報提供を行いました。	奈良県の医療費増加を医療提供側と患者側の要因に分類・評価し、定量化を図る医療費増加要因分析を新たに実施します。

《弱みを踏まえ追い風を活かす課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
特定健康診査・特定保健指導の実施率の向上(テーマ(92))	被保険者に対する受診・利用勧奨や広報啓発を行った結果、特定健康診査・特定保健指導の実施率は着実に上昇しています。	未受診者への受診勧奨通知などの効果的な受診・利用勧奨や広報啓発を継続するとともに、がん検診との同時実施等で被保険者の利便性向上を図ります。
医療従事者の働き方改革の推進(テーマ(93))	「病院勤務医の勤務環境の改善」を医師確保に関する方針及び目標として位置づけた「奈良県医師確保計画」を令和2年3月に策定しました。	医療従事者の勤務実態の把握、医療機関による医療従事者の時間外労働時間短縮の取組支援、医療勤務環境改善支援センターによる個別相談の充実などにより、医療従事者の勤務環境の改善を進めます。

《強みで向かい風を克服する課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
奈良県西和医療センターのあり方(テーマ(96))	広域的な課題について、県と西和7町で協議の場を立ち上げ、西和地域の医療、包括ケアのあり方について協議を行いました。 令和2年度は、前年度に引き続き、県と奈良県立病院機構が連携して、西和地域の医療需給分析、西和医療センターに求められる医療機能や施設規模の検討を進めました。	西和地域の医療需給分析を踏まえ、西和医療センターの部門別機能や医療機器等の導入の基礎検討、整備手法等について検討を行い、令和3年度に新西和医療センター基本構想としてとりまとめ、令和5年度までに基本計画の策定を目指します。
県が設立した一般財団法人による出所者の雇用(テーマ(100))	令和2年9月、出所者2名を直接雇用し、林業の分野で就労研修を実施するとともに、社会復帰に向けたソーシャルスキルトレーニングなどの社会的な教育を実施しました。	出所者をさらに雇用して、林業の分野での就労研修を実施するとともに、農業等の様々な分野での就労研修先を開拓し、また個別の特性に応じた社会的な教育を実施するなど更生支援の取組を充実させていきます。

《弱みを踏まえ向かい風に備える課題》

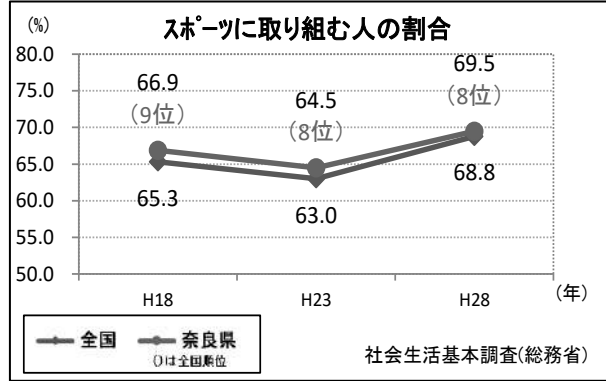
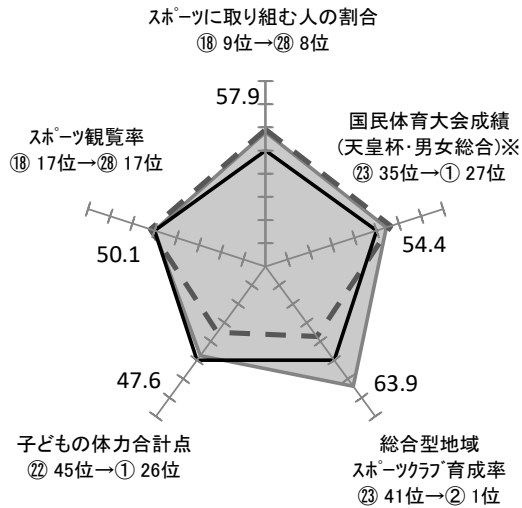
課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
医師の偏在対策(テーマ(93))	修学資金制度等による、特に医師が不足する特定の診療科等に勤務する医師の育成や、自治医科大学卒業医師の派遣等により、へき地で勤務する医師を確保してきました。	診療科間での医師の偏在の解消に向けて、修学資金制度の対象となる診療科の見直しを検討するとともに、へき地勤務医の確保や医師少数区域等で勤務する医師に対する支援を行います。
南和におけるAIを活用した高齢者支援システムの構築(テーマ(94))	高齢者が使い慣れた家庭にある電話を活用したAI(人工知能)による高齢者支援システムの構築に向けた検討を開始し、株式会社NTTドコモと令和2年3月に「奈良県における地域包括ケアシステムの推進に関する連携協定」を締結しました。令和2年度は南和3市村に在住の後期高齢者の方等を対象に音声認識の精度の確認等を目的とした実証実験を行いました。	このシステムを活用することで介護予防、安否確認に役立つことが期待でき、令和3年度はさらに南和12市町村に対象を拡大したモデルで実施します。

18. だれでもいつでもどこでもスポーツできる環境づくり

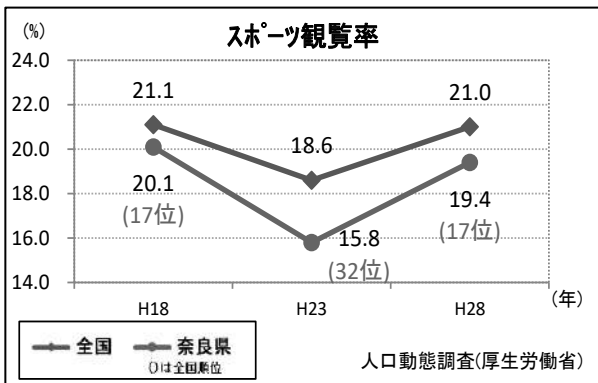
【担当部局等】

文化・教育・暮らし創造部、地域デザイン推進局

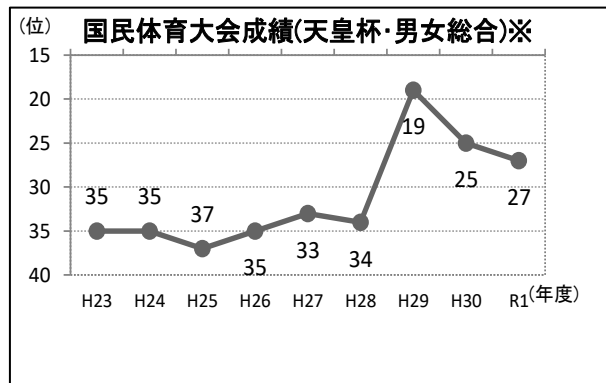
1. 現状分析



平成28年のスポーツに取り組む人の割合は、平成18年と比べて2.6ポイント上昇しており、全国平均を上回っています。

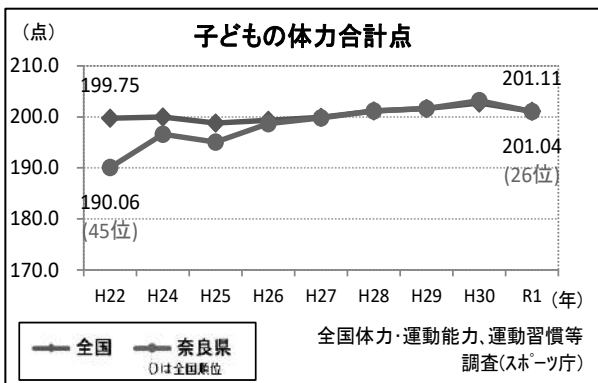


平成28年のスポーツ観覧率は、全国平均より低い率ですが、全国順位は17位となっています。

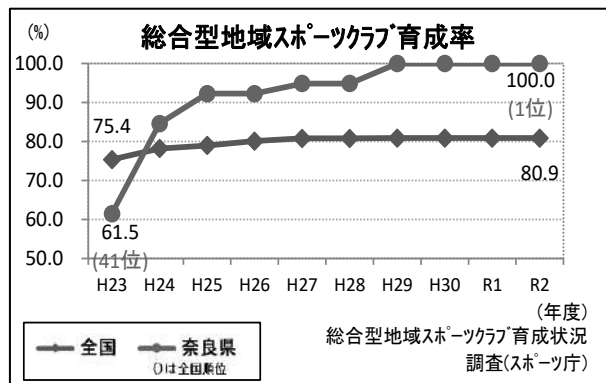


※は数値が低い方が良くなる指標です。

競技力向上の取組により、国民体育大会の成績は、平成29年度以降は20位台以上を維持しています。(令和2年度の国民体育大会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)



子どもの体力合計点は年々上昇傾向にあり、近年は全国平均と同じ水準で推移しています。(令和2年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため調査中止)

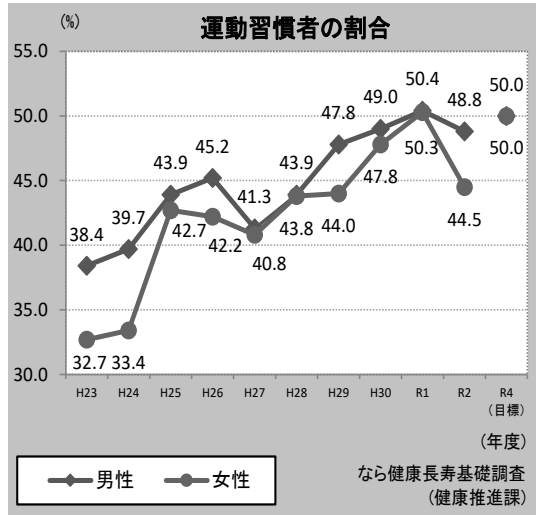


県内全市町村にクラブが設立されたことで、平成29年度から育成率は100%(全国1位)となっています。100%の育成率は本県を含め8県です。

2. 各テーマの「目指す姿」達成に向けた進捗状況

坊	18.だれでもいつでもどこでもスポーツできる環境づくり
テーマ	(101) スポーツ施設の整備構想策定 (103) スポーツ振興ビジョン策定とまちなかスポーツの振興
目指す姿	令和4年度までに運動習慣者(1日合計30分以上の運動・スポーツを週2日以上実施している人)の割合を50%以上に増やします。

CC(チーフコーディネーター)
(101)、(103) 文化・教育・暮らし創造部 スポーツ振興課長 木村 茂和



運動習慣者の割合(%)					
	基準値		実績値	目標値	進捗率 (傾向)
男性	38.4	↑ 10.4 (ポイント)	48.8	50.0	89.7%
	H23年度 (2011)		R2年度 (2020)	R4年度 (2022)	9/11 年目
女性	32.7	↑ 11.8 (ポイント)	44.5	50.0	68.2%
	H23年度 (2011)		R2年度 (2020)	R4年度 (2022)	9/11 年目
直近の指標の動き					
男性	49.0	↑ 1.4 (ポイント)	50.4	↓ ▲ 1.6 (ポイント)	48.8
	H30年度		R1年度	R2年度	
女性	47.8	↑ 2.5 (ポイント)	50.3	↓ ▲ 5.8 (ポイント)	44.5
	H30年度		R1年度	R2年度	

	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
進捗状況	運動習慣の割合の実績値は、男性は基準値の38.4%から10.4ポイント増加し、進捗率は89.7%となり、女性は基準値の32.7%から11.8ポイント増加し、進捗率は68.2%となりました。令和元年度は目標値を達成しましたが、令和2年度は男女共に減少しました。	「奈良マラソンKONOIKE2020」をはじめ、新型コロナウイルス感染症対策をとったうえで県内スポーツイベントの開催支援等、運動・スポーツを楽しむ環境や機会の提供を図ったものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止により、外出制限や各種大会の中止、施設の利用停止がなされ、運動習慣の割合は男女共に減少しました。

「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き

主な取組	関係する指標	指標の動き					
		実績値	動向	実績値	動向	実績値	動向
総合型地域スポーツクラブによる地域スポーツの推進	総合型地域スポーツクラブ数[累計](クラブ)	64	↑	66	→	66	↓
		H29年 (2017)	2 クラブ	H30年 (2018)	0 クラブ	R1年 (2019)	▲ 2 クラブ
スポーツ拠点施設の整備・運営	橿原公苑におけるナイトラン参加者数(人)	25,250	↑	25,618	↓	21,292	↓
		H29年 (2017)	368 人	H30年 (2018)	▲ 4,326 人	R1年 (2019)	▲ 4,876 人

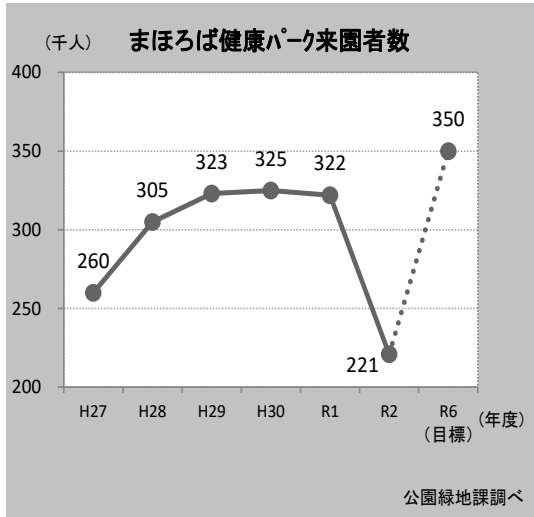
「目指す姿」達成に向けた成果・取組

東京2020オリンピック聖火リレー(令和3年4月11日・12日開催)の実施に向けて、警察、消防及び走行19市町村と協同して準備を進め、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への機運醸成を図りました。

令和13年度に開催を目指す本県における2巡目の国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会の開催要望書を令和2年11月27日にスポーツ庁、日本スポーツ協会、日本障がい者スポーツ協会に提出し、同年12月に開催の内々定を得ました。

坊	18.だれでもいつでもどこでもスポーツできる環境づくり
テーマ	(102) スイミア奈良(県営プール)の施設充実、まほろば健康パークの機能強化
目指す姿	令和6年度までにまほろば健康パーク来園者数を年間35万人にします。

CC(チーフコーディネーター)
(102) 地域デザイン推進局 公園緑地課長 竹林 義之



まほろば健康パーク来園者数(千人)				
基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
260	↘	221	350	基準値を39千人下回りました
H27年度(2015)	▲ 39(千人)	R2年度(2020)	R6年度(2024)	5/9 年目
直近の指標の動き				
325	↘	322	↘	221
H30年度	▲ 3(千人)	R1年度	▲ 101(千人)	R2年度

進捗状況	指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
	令和元年度までの来園者数は遡増の傾向がありましたが、令和2年度は令和元年度の68.6%に減少しました。	利用者へのサービス向上などにより来園者数は遡増していましたが、令和2年度は屋外スポーツの需要の高まりなどから、野球場などの利用は増加しているものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ファミリープールの利用制限などを行ったことで利用者数が減少しました。

「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き

主な取組	関係する指標	指標の動き						
		1,646	↗	1,753	↗	1,806	↘	1,360
まほろば健康パークの機能強化	スイミア奈良会員数 [累計](人)	H29年度(2017)	107人	H30年度(2018)	53人	R1年度(2019)	▲ 446人	R2年度(2020)
		95,260	↗	101,848	↘	99,551	↘	72,880
まほろば健康パークの機能強化	スイミア奈良会員利用者数(人)	H29年度(2017)	6,588人	H30年度(2018)	▲ 2,297人	R1年度(2019)	▲ 26,671人	R2年度(2020)

「目指す姿」達成に向けた成果・取組

まほろば健康パーク機能強化基本計画の策定に向けて、計画の素案を検討しました。

令和3年6月の完成に向けて、「スイミア奈良」50m屋外プールの観客席増設や屋根の整備等を推進しました。

3. 次年度に向けた課題の明確化

18. だれでもいつでも
どこでもスポーツ
できる環境づくり

(101) スポーツ施設の整備構想
策定

(102) スイミア奈良(県営プールの施設充実、まほろば健康パークの機能強化

(103) スポーツ振興ビジョン策定
とまちなかスポーツの振興

内部要因(奈良県内部の状況…ヒト・モノ・カネ等の資源や風土等)

<奈良県の持っている強み>

- 1.令和元年度に第10回目を迎えた「奈良マラソン」は、参加者が1万7千人を超える冬の一大イベントとして定着
- 2.奈良県は、豊かな自然、起伏ある地勢、美しい風景や歴史的な景観・文化財をはじめとする観光資源等が豊か
- 3.総合型地域スポーツクラブ育成率100%であり、活発に活動するクラブが増加
- 4.まほろば健康パークに近接して利活用可能な空き地が存在する

<奈良県の抱えている弱み>

- 5.青壮年期(20歳~64歳)の運動習慣のある人の割合が低い
- 6.プロスポーツや全国大会規模のスポーツ大会を開催できる施設が充分でなく、観覧に行く人の割合が低い
- 7.県内にスポーツに特化した強豪校が少なく、能力の高い高校生、大学生が県外に流出
- 8.奈良県を拠点とする実業団・プロスポーツチームが少ないため、社会人選手の入力が少ない
- 9.スポーツ施設の老朽化

外部要因(奈良県外部の状況：社会情勢の変化、制度改正、県民ニーズ等)

<奈良県への追い風>

- a.ウォーキングやジョギング、サイクリング等を楽しむ高齢者の割合が増加
- b.2031年の「第85回国民スポーツ大会・第30回全国障害者スポーツ大会」の奈良県開催が内々定

(新型コロナウイルス感染症に関連する追い風)

- c.新型コロナウイルス感染症対策に配慮したスポーツイベントの形を模索する動き
- d.新しい生活様式を踏まえた情報発信方法を模索する動き

<奈良県への向かい風>

- e.趣味の多様化によるスポーツをする機会の減少
- f.人口減少と少子高齢化
- g.子どもの外遊びの機会の低下
- h.公園利用に関するニーズの多様化

(新型コロナウイルス感染症に関連する向かい風)

- i.新型コロナウイルス感染症拡大に伴う、運動・スポーツを楽しむ環境や機会の低下

<強みで追い風を活かす課題>

【重要課題】県内市町村に設立されている総合型地域スポーツクラブの更なる充実・活性化(3,a,c)
・国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催に向けた県民の機運醸成とスポーツの振興、奈良県の魅力発信(2,3,b,d)
・公園機能強化によるまほろば健康パークの魅力向上(4,b)
・スポーツツーリズムの推進(1,2,a,d)

<弱みを踏まえ追い風を活かす課題>

【重要課題】国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催準備を通じたスポーツ環境の充実(5,6,7,b)
【重要課題】スイミア奈良施設充実によるまほろば健康パークの更なる魅力向上(6,b)
・青壮年期に向けた身近なスポーツイベントの開催(5,7,8,a,c,d)

<強みで向かい風を克服する課題>

【重要課題】まほろば健康パーク機能強化による子育て世代のニーズへの対応(4,e,f,g,h,i)
【重要課題】奈良の持つ「自然・歴史・文化資源」を生かした奈良らしいスポーツイベントの開催(1,2,3,4,e,f,g,h,i)
・県スポーツ拠点施設の整備やスポーツを通じたにぎわいの創出(2,4,e,g)

<弱みを踏まえ向かい風に備える課題>

【重要課題】幼少期からのスポーツに親しむ機会の創出(5,7,e,g,i)
・スイミア奈良施設充実によるスポーツ需要への対応(6,9,e,h)

4. 重要課題等に対するこれまでの評価、取組及びそれらを踏まえた今後の取組方針

《強みで追い風を活かす課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
県内市町村に設立されている総合型地域スポーツクラブの更なる充実・活性化(テーマ(103))	総合型地域スポーツクラブは、全市町村に設置されており、多くのクラブが活発に活動しています。	県クラブアドバイザーが各クラブ・市町村を訪問して行う助言指導など、県内全市町村の総合型地域スポーツクラブの充実・活性化を図るための支援を行っていきます。

《弱みを踏まえ追い風を活かす課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催準備を通じたスポーツ環境の充実(テーマ(101))	国民スポーツ大会の開催及び将来的な利活用を見据えた中長期的な視点でスポーツ拠点整備・運営を検討しています。	プロスポーツ開催の基準などを踏まえることで、大規模大会招致やプロスポーツ観戦機会の拡大を図るとともに、日常に利用しやすい機能を充実させることにより、県民の健康増進を図ります。
スィムピア奈良施設充実によるまほろば健康パークの更なる魅力向上(テーマ(102))	国際大会や全国大会の招致を視野に入れ、50m屋外プールの観客席増設や屋根の整備を行っています。	新たに設置した観客席や屋根の適切な管理、運営を行うとともに、国際大会や全国大会誘致に向けて、国内外の競技団体やスポーツ関係者にPRし、市町村と一体となって魅力向上を図ります。

《強みで向かい風を克服する課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
まほろば健康パーク機能強化による子育て世代のニーズへの対応(テーマ(102))	まほろば健康パークの拡張区域の機能強化を図るべく検討を進めています。	運動・スポーツを楽しむ環境や機会を提供するため、まほろば健康パークの機能強化実現に向け、子どもが憩い楽しみ遊ぶことができる公園を基本コンセプトに基本計画を策定します。
奈良の持つ「自然・歴史・文化資源」を生かした奈良らしいスポーツイベントの開催(テーマ(103))	参加型スポーツイベントにより地域の活性化を図り、自然豊かな地域の特色を活かしたスポーツイベントによるスポーツツーリズムを推進しています。	南部東部地域の地勢を活かしたサイクルイベントの開催などを継続して行なっていきます。また、ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催を契機とし、地域スポーツの活性化を図っていきます。

《弱みを踏まえ向かい風に備える課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
幼少期からのスポーツに親しむ機会の創出(テーマ(103))	幼児向け運動・スポーツプログラムの作成普及や、トップアスリートとの交流イベントの開催等、幼少期からのスポーツに親しむ機会を創出しています。	関係機関と連携した幼児向け運動・スポーツプログラムの普及活動に加え、幼少期からの運動習慣化に向けた取り組みについて、有識者の意見等を参考に検討を進めます。

